



令和4年7月 発行

第18号

■ 市立横手病院 地域医療連携室 ■ 横手市根岸町5番31号

■ TEL 0182-33-9720・FAX 0182-33-7922 ■ E-mail:renkei@yokote-mhp.jp



ごあいさつ

院長 丹羽 誠

皆様におかれましては、日常業務の上に、新型コロナ発熱外来、陽性者の報告管理、自宅療養者健康観察、療養施設当番、ワクチン出務等でお忙しい日々と存じます。特に高齢者施設でのご苦労は大変なことと存じます。

私どもへの日頃のご協力、そして医療連携室ご利用を心より御礼申し上げます。当院の状況を少しご説明いたします。

- ①当院新型コロナ入院患者実数は106人になりました(2022年5月末)。既存施設4床で開始し、重症者・患者増のために急性期病棟を区切り密閉し陰圧設備を設置して対応しました。現在は地域包括ケア病棟半区画分を感染症病棟(最大14床)としています。厳密な区画分離・陰圧空間の管理、そして職員の厳重な健康管理を行っています。
- ②当院検査科PCR検査可能容量は1日80件ですが、今春の保育園・学校クラスター発生時に検査キット供給不全となりました。都市部で無症状者の無料PCR検査を国が進めた結果であり、秋田県健康福祉部では如何ともし難いと。秋田県医師会長が動いて下さり、厚労省医政局指示で流通業者からは当院にも供給が続くことになりました。地域感染の状況となり、当院ではすべての入院患者にPCR検査を行っています。
- ③医局スタッフは常勤医師31名(うち初期研修医8名)で、呼吸器内科医は非常勤体制のままです。医局、看護科、薬剤科、リハビリ科、検査科、放射線科、食養科、事務部門、そして清掃業者もすべてがプロとして、感染対策を日々の業務の基本として行っております。

当院133年自治体病院の歴史には「疫病院」の一面があります。世間から忌み嫌われていた昔の表現ですが、改めて感染症がもたらす不安、偏見差別の根の深さを感じます。1990年代、血友病治療患者がエイズの恐れがあると全国多くの医療機関で差別を受けた際、当院の先達たちは「感染対策を行えば診療は問題なく可能」と受け入れ対応しました。また当院では季節性インフルエンザ診断がされている患者さんから、院内二次感染を起こしたことはありません。感染対策について当院は第三者からいつも高い評価を受けています。

新型コロナ患者数は減少傾向ですが医療界での緊張は続きます。皆様との連携をこれからも深めながら、当院は日常診療の責任を、質を高めて担う覚悟をしております。

私共は、地域の人々からの信頼にお応えして、さらに安心できる良質な医療を提供し、心ふれあう人間味豊かな対応をしてみたいと思いますので、何卒よろしくお願いを申し上げます。



糖尿病内分泌内科
科長 岩村 庄吾

当院糖尿病内分泌内科は常勤医 2 名、大学病院からの外来応援医師 1 名の体制で日々の診療にあたっております。

糖尿病治療・療養指導を行い、合併症の進展を未然に防ぐこと、内分泌疾患の的確な診断および治療を行うこと、他科入院中の患者さんの血糖管理を行うことで、手術や他科疾患の治療の安全性の向上に貢献することを中心に活動しております。

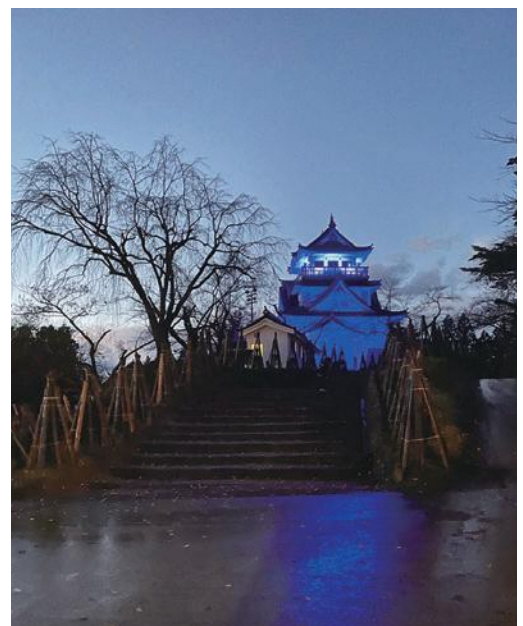
平成 28 年度の開設以来、近隣の医療機関からのご紹介のおかげもあり、外来患者数は増加してきており、現在は週あたり 200 名程度となっております。

外来患者さんの多くを占める糖尿病に関しましては、多職種が所属する病院の特徴を活かし、管理栄養士による栄養指導、薬剤師によるインスリン自己注射・血糖測定指導後の外来インスリン導入、腎症 2 期以上の方を対象とし多職種の介入を計 6 回シリーズで行う糖尿病透析予防指導などを積極的に取り入れた治療を行っております。最近では患者さんの上腕にセンサーをとりつけて血糖を持続的にモニタリングすることが可能なフラッシュグルコースモニタリングシステム（商品名：FreeStyle リブレ）を用いた治療も始めております。また、適応のある方には持続皮下インスリン注入療法 (CSII) の使用も可能です。

外来通院中でコントロール不良の方、近隣医療機関よりご紹介いただき治療方針の見直しが必要な方、初発の糖尿病の方などに対して教育入院も行っております。当院の教育入院は 2～3 週間を目安として行っており、インスリンを用いた高血糖の是正、インスリン分泌能の評価など病態の把握をもとにした最適な治療法の検討、インスリン注射の手技指導、合併症のスクリーニング、運動療法の指導、糖尿病教室への参加による疾患教育などを行っております。

また、健診で異常を指摘された方の早期受診や、通院中の方への合併症進展予防を啓蒙するために糖尿病教室の開催や、糖尿病週間での講演などを行ってまいりました。最近ではコロナ禍により糖尿病教室は入院患者さんのみに規模を縮小し、糖尿病週間の講演会も中止せざるを得ず、もどかしい思いをもっておりましたが、令和 3 年度は、コロナ禍でもできる啓蒙活動として、糖尿病週間に合わせて建物を青色にライトアップして糖尿病の啓蒙を行う「ブルーライトアップ」を、横手城を会場にして県南地域では初めて実施しました。期間中は城内で糖尿病に関するポスター展示も行い、200 名以上の方にご覧いただくことができました。

当院は小さな病院ではありますが、県南地区の糖尿病医療の一翼を担うべく、スタッフ一同日々研鑽に努めてまいります。今後ともご指導のほどお願い申し上げます。



臨床工学技士は1987年に制定された医療機器の専門職種であり、医療機器の安全性確保と有効性維持の担い手としてチーム医療に貢献しています。当初は医師の指示の下に人工呼吸器、人工透析装置など生命維持管理装置の操作及び保守点検を行うことが主な業務とされてきましたが、現在では内視鏡やペースメーカー、保育器、在宅医療など様々な分野で幅広く活躍するようになり、2007年の医薬品医療機器法改正では「医療機器の保守点検・安全管理に関する体制の確保」が明記されたことにより医療機器安全管理室が設置され、医療安全に大きく貢献するようになりました。また、昨年より「医師の働き方改革に伴うタスクシフト・シェア」が法案化され、今後の業務拡大が見込まれるなど、更なる活躍が期待されています。

当院臨床工学科の業務紹介

【中央医療機器管理】

院内の機器は中央管理化され、点検や故障・修理などのトラブル対応など一連の管理が行われ、安全な使用と効率の良い運用ができるよう適切な管理に務めています。



【手術室・内視鏡業務】

麻酔器や内視鏡手術装置をはじめ機器は多種多様であり、手術や検査が円滑に、かつ安全に行われるよう操作や管理を行っています。



【透析・血液浄化業務】

血液透析をはじめ様々な血液浄化を行う他、バスキュラーアクセスに対しての超音波画像診断や造影、経皮的拡張術などにも携わります。



【重症患者等治療業務】

人工呼吸器や持続的血液浄化装置などの生命維持管理装置の操作や管理を行っています。

最近では新型コロナウイルス感染症における重症患者への人工呼吸器などの使用において、それらを操作、管理する医療機器のスペシャリストとして注目されました。

【ペースメーカー業務・心臓カテーテル業務】

当科スタッフは「不整脈治療専門臨床工学技士」や「植込み型デバイス認定士」の資格を有しており、その各種設定やこれまで撮像不可であったMRIへの対応、心臓カテーテル検査などの不整脈治療にも携わります。なおペースメーカーは遠隔モニタリングの積極的な導入により、患者さんの通院負担の軽減に務めています。



【在宅医療】

在宅人工呼吸や在宅酸素療法のなどの管理、患者指導の他、最近では睡眠時無呼吸症候群検査の実施とデータ解析、これに伴うCPAPの導入などの件数が増えています。睡眠時無呼吸症候群については耳鼻科領域の問題だけではなく、放置しておく心疾患の合併を来す場合もありますので、積極的な検査を進めております。当院では入院検査も対応しておりますので是非ご紹介ください。

昨今の医療技術・機器の進歩と高度化・複雑化において、より専門的な知識や豊富な経験が求められるなか、私たちは資格取得など研鑽に励み専門性を高めつつ、医療機器の適切な管理運用と臨床技術提供により組織・地域医療に貢献していきたいと思っております。

医師の紹介

- ①出身大学 ②資格
③趣味・特技 ④抱負



伊藤 隆一
(泌尿器科)

- ①秋田大学(2009年)
②泌尿器科専門医、指導医
③マラソン
④地域医療に貢献できるよう努力いたします。



渡部 桃子
(研修医)

- ①岩手医科大学(2022年)
③YouTubeなどでの動画鑑賞・ドライブ
④1日でも早く皆様の役に立てるよう日々精進して参ります。よろしくお祈りいたします。



宮澤 幸一
(研修医)

- ①秋田大学(2022年)
③ゲーム・カラオケ
④少しでも早く秋田の医療に貢献できるように精進してまいります。



加藤 和子
(研修医)

- ①秋田大学(2022年)
③ハムスターの動画を見る。
④地域の皆様のお役に立てるよう頑張ります。



室本 大河
(研修医)

- ①秋田大学(2022年)
③麻雀
④適度に頑張ります。

院内がん登録

令和3年(対象期間：令和3年1月1日から12月31日)の当院の院内がん登録件数は、417件となっており、令和2年と比較すると16件増加しております。

がん登録の内訳は、大腸癌が103件と最も多く、次いで、胃癌(89件)、乳癌(47件)となっております。

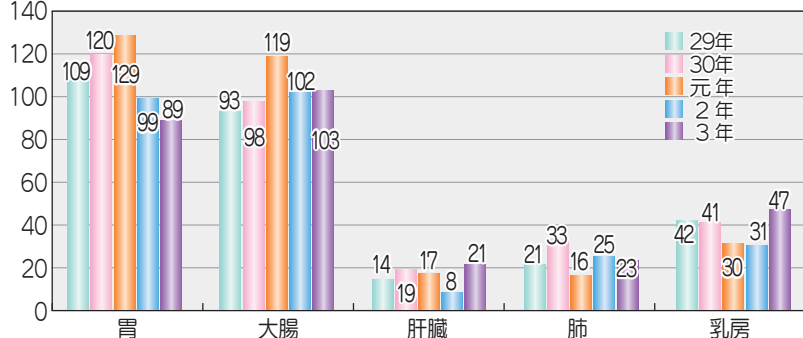
主要5部位については、大腸癌、肝臓癌、乳癌が前年より増加しております。特に肝臓癌は前年より13件増加しております。また、胃癌に関しては、前年より10件減少しており、過去5年間で最も少なくなっております。

主要5部位以外では、膵臓(27件)、胆道(22件)、前立腺(18件)、が多くなっております。

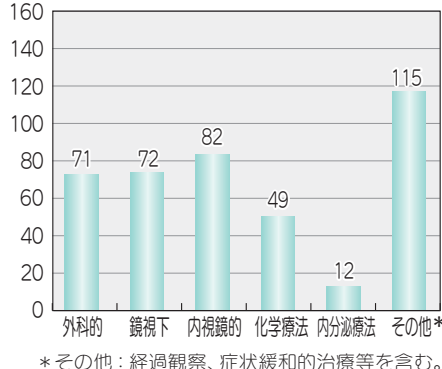
初回治療件数は、鏡視下手術が前年より7件増加しており年々増加傾向にあります。

外科的手術と内視鏡的手術を含む癌の病巣を切除する観血的治療は、全体の56%を占めており、毎年50%を超えております。

(件) 平成29年～令和3年 主要5部位登録件数



(件) 令和3年 がん初回治療件数



地域医療連携セミナー開催のお知らせ

今年度は11月9日(水)に地域医療連携セミナーを開催する予定です。

(ただし、新型コロナウイルスの感染状況によってはWeb開催または中止となる場合もございますのでご了承ください。)